

これまでの取組や社会潮流の変化・課題を踏まえ、兵庫の人口減少にしなやかに対応し、県民が地域創生を実感できる『躍動する兵庫』の実現に向けた戦略を策定するにあたり、具体的な施策や取組についてのご提案・ご意見を伺う

1 次期戦略を貫く「基本的な考え方」について

<p>ウェルビーイング (幸福度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地位財(カネ、モノ、地位)から、非地位財(幸せ、コト、健康)を求める価値観への変化、また、それが重要視される社会 ・個人の幸福度が、地域の活性化や人口流出の抑制に好影響を及ぼす調査結果あり ・より満たされ、更に豊かな兵庫を目指すために、ウェルビーイングの視点を付与 	<p>インクルーシブ (包摂性)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・格差・不平等を乗り越え、全ての人々が個性を活かすことができる社会、また、人と人との関係性が強化される社会 ・平等な教育や学習・雇用の機会の提供、地域コミュニティの支援、住環境の改善、多様性(ダイバーシティ)や包摂性の尊重など、地域で直面する様々な課題にまたがる ・兵庫でも課題を抱えた子どもや外国人労働者の増加への対応、女性参画社会の実現等の取組を展開
<p>レジリエンス (回復能力)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先行き不透明なVUCA時代※に柔軟に、しなやかに対応できる社会 ・少子化、地域の過疎化、自然災害等への対応にレジリエンスの視点を付与 ・兵庫が成し遂げた「創造的復興」との親和性も高く、独自の視点としての活用の可能性 <p>※Volatility(変動性) Uncertainty(不確実性) Complexity(複雑性) Ambiguity(曖昧性)の頭文字をとった言葉で、目まぐるしく変転する予測困難な状況を意味</p>	<p>サステナブル グロース (持続可能な成長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・社会・環境の好循環を生み出しつつ、持続可能な成長を実現する社会(SDGs=実現のための目標) ・兵庫でもフィールドパビリオンや、脱炭素化・生物多様性の保全等のGXの取組を展開 ・環境や社会課題に対する取組から企業価値を測り、投資先を選択するESG投資も注目

2 次期戦略における方向性や具体的な施策を検討する際の「7つの論点」について

○地域創生の実現に向けては、**新たな地域活力の創出**や、**シビックプライドの醸成**、**生活満足度の向上**等を重視した施策展開が重要ではないか

○これらのポイントを踏まえつつ、より効果的な方向性や具体的施策を検討するにあたり、以下論点案を例示



■論点案

<p>① ひとの動き</p> <ul style="list-style-type: none">・移住者、来訪者はもとより、その地に住まうすべての人々が、生き生きと暮らし活動する姿は、地域に活力をもたらし、新たな人流や交流を生み出す・人流(活動)や交流を活発にするために必要なことは何か	<p>② まちの動き</p> <ul style="list-style-type: none">・魅力的な街並みや暮らしやすい住まい、心安らぐ緑、楽しいイベント、感性を揺さぶるアートといったまちの「風景」や「活動」は多くの人を惹きつける・こうしたまちを形成していくために必要なことは何か	<p>③ 社会の動き</p> <ul style="list-style-type: none">・デジタルやグリーンといった先端技術の活用を図りつつ、エネルギーや資源循環など責任をもって次世代に地域を受け継ぐための社会システムの構築が急務・こうした社会システムの構築に必要なことは何か	<p>④ 経済の動き</p> <ul style="list-style-type: none">・兵庫が誇るものづくり産業をはじめ地域に根付く地場産業や農林水産産業を伸ばしつつ、社会起業家を応援する雰囲気と仕組みが必要。またワークライフバランスは全ての人の暮らしの基盤・こうした経済を兵庫で実現するために必要なことは何か
<p>⑤ 寛容性</p> <ul style="list-style-type: none">・自分とは異なる価値観を受け入れ、挑戦や失敗を許容する寛容性は、地域に多様性を生み出し、様々な希望の創出や幸福度の向上に繋がる・寛容性にあふれる地域づくりのために必要なことは何か	<p>⑥ 地域の固有性</p> <ul style="list-style-type: none">・地域古来の歴史や伝統、郷土料理や行事といった文化等、各地域が持つ固有性は、地域の魅力やシビックプライドの醸成に繋がり、人々の交流や定着を生み出す・「地域らしさ」を磨き上げ、後世に伝えていくために必要なことは何か	<p>⑦ 地域への満足度</p> <ul style="list-style-type: none">・森や海、公園等から感じる自然や、買物やレジャーを楽しむ生活環境など、日々の暮らしの質を高める環境が地域にあることは重要・どのような生活環境が、希望や幸福度の向上に繋がりやすく、その実現のために必要なことは何か	<p>議論テーマは「地域の希望に関する調査※」(LIFULL HOME' S総研)を参考に作成</p> <p>※同調査では、<u>希望を持つことが地域の幸福度の上昇につながり、人口流出の抑制や、まちの将来の持続性を高めることについて分析</u></p>

企画委員会で検討して頂く論点など【第1回戦略会議を踏まえて】

■各論点案におけるキーワード例

ひとの動き	まちの動き	社会の動き	経済の動き
<p><u>○以下のような「ひと」を地域で拡充</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県外から移住者やUターンする若者 ・ 外国人観光客、外国人の居住者 ・ 街で見かける若者や子連れの家族 ・ 地元企業で活躍する女性経営者 ・ 育児休暇を取得する男性 ・ 農林水産業で活躍する従事者 ・ 社会で活躍する障害者 ・ 感性が若々しい元気高齢者 ・ 文化芸術やレジャーを楽しむ人 ・ 積極的に挑戦する若者 	<p><u>○増加していくことが望ましいもの</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地の若者向けのお店 ・ 魅力的な住まいや賑わいのある施設 ・ リノベーションしたおしゃれなお店 ・ 街づくりのイベントやプロジェクト ・ 子連れでも楽しめるお店・場所 <p><u>○改善していくことが望ましいもの</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のブランドイメージ ・ 皆で楽しめる公共空間(公園等) ・ “とし”と“いなか”の交流 ・ 「地域の足」としての公共交通機関 ・ 近隣の居住環境(景観・治安) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暮らしのデジタル化の促進 ・ 役所の手続きのオンライン化 ・ テレワークを認める職場の増加 ・ リモートワークが可能な施設の増加 ・ カーシェア・シェアサイクルの促進 ・ 身近にSDGsを感じる機会の拡充 ・ 太陽光パネルを備えた住宅の増加 ・ サーキュラーエコノミーによる循環社会化 ・ グリーンインフラの普及 ・ 地元食材を積極的に使う飲食店の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元企業の経営者の若返り ・ 地域の採用・雇用環境の改善 ・ ワークライフバランスの促進 ・ スタートアップ・ベンチャーの起業促進 ・ 成長して勢いのある地元企業の増加 ・ ITやデザインなど新しい仕事の創出 ・ 低賃金・長時間労働の改善 ・ 買物や外食を楽しむ消費環境 ・ キャッシュレス決済の普及 ・ スマート農業・有機農業の促進

寛容性	地域の固有性	地域への満足度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 結婚願望や子どもを持ちたいと希望する若者の増加 ・ 政治や経済で活躍する女性の拡大 ・ 若者の挑戦を応援し、失敗を許容する気風や雰囲気醸成 ・ 人種やマイノリティ差別に繊細に注意を払う人の増加 ・ 他人の意見を尊重する空気醸成 ・ リスクを顧みず新しい挑戦をする人が尊敬される社会醸成 	<p><u>○有効に活用していきたいもの</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山・海・川など心の風景とも言える自然 ・ 地域のお祭りや伝統行事 ・ 史跡・名勝等の観光名所(歴史を感じさせる街並み) ・ 古くからの歴史や言い伝え ・ 地酒や郷土料理など独自の食文化 ・ 地元産品を利用した名産品や土産物 ・ 昔ながらの元気な商店や地場産業 	<p><u>○住む人視点の評価で重視すべきこと</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然からの恩恵を感じられる環境 ・ 住まいの環境、街並み、コミュニティ ・ 文化やレジャー、余暇の過ごし方 ・ この地域に誇りを感じる、愛着感 ・ 政治や行政(役所)への信頼感 ・ 医療や介護への不安の少なさ ・ 地域の子育てや教育の環境 ・ 防災インフラ、災害への備え

■本日の委員会で議論して頂きたいこと

①「基本的な考え方」や「7つの論点」に対するご意見やご感想

②上記と次ページ以降の「取組事例」※を踏まえ、**次期戦略で兵庫県が目指すべき方向性**や、**地域創生を実現するための具体的な施策**などについて意見交換

⇒今回頂いた意見を事務局にて整理し、次回以降にてご議論

※次ページ以降に参考として「人口減少への対応に資する地域創生の取組事例」を掲載。それぞれ市町による個別具体的な取組が中心であるが、「7つの論点」の特徴も含まれており、これらの事例も参照頂き、県戦略における取組の方向性のヒントやアイデア等をご提案願います

企画委員会で検討して頂く論点など【第1回戦略会議を踏まえて】

(参考) 人口減少への対応に資する地域創生の取組事例

※各項目の特徴を踏まえ、事務局の思い込みで論点への○付けを実施(3つまで)

番号	項目	概要	ひと	まち	社会	経済	寛容性	固有性	満足度
1	廃校を活用した道の駅 「保田小学校」 千葉県鋸南町	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校を都市交流施設としてリノベーションし、2015年に「道の駅保田小学校」をオープン(開設は鋸南町、運営は民間企業) ・旧体育館には農産物などの直売所、旧校舎には飲食・物販店舗や宿泊・温浴施設、その他子ども広場や観光案内所等様々な施設機能を有し、校舎の雰囲気醸し出す懐かしさ等で人気を博している ・開業後4ヶ月で50人の雇用、12万人の訪問客を創出、また、初年度に目標としていた年商2億7,000万円をオープン半年後に達成 	○			○		○	
2	田んぼアート 青森県田舎館村	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼをキャンパスに見立て、色の異なる稲を絵の具代わりに巨大な絵を作成 ・田舎館村が村民と大学生と協働して町おこしに挑戦し、海も山もない小さな村に観光資源を創出した事例 ・現在では、雪の時期でも「冬の田んぼアート」を開催 		○			○	○	
3	神山プロジェクト 徳島県神山町	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「神山プロジェクト」と称される神山町の取組概要は、 ①サテライトオフィス(場所を問わない柔軟な働き方を実現) ②ワーク・イン・レジデンス (仕事を持った移住者もしくは仕事を創出する起業家の誘致) ③神山塾(職業訓練・起業支援の実施) ・県主導で全国屈指の高速ブロードバンド環境を実現のうえ首都圏からサテライトオフィスを誘致し、今では古民家を活用して多くの企業が参入 ・やみくもに移住者を受け入れるのではなく、町が求める職を持つ人材を誘致したり、職業訓練・企業支援を提供したりすることで、自治体・移住者ともに満足しやすい環境を整え、定着を図っている 	○	○	○				



企画委員会で検討して頂く論点など【第1回戦略会議を踏まえて】

番号	項目	概要	ひと	まち	社会	経済	寛容性	固有性	満足度	
4	地方共創BPO事業で雇用を創出 秋田県大仙市①	<ul style="list-style-type: none"> 市内のショッピングモールに自治体や企業から事務作業を請け負うBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)の拠点を開設 民間企業を運営者とし、連携して地元住民を中心に50人程度の雇用創出を目指す あわせて行政サテライトセンターを併設、更に市職員とオンラインで繋ぐ相談窓口も設置し、市民の利便性向上にもつながる取組 			○	○			○	
5	商店街リノベーションによる人の流れの創出 秋田県大仙市②	<ul style="list-style-type: none"> 大仙市大曲地区では、商店街への来街者や店舗の減少が課題となり、市街地再開発事業による駅前への中核病院や認定こども園の集約を機に、商店街の古い内蔵を、特産品販売・交流施設にリノベーションを行い、新たな人の流れを創出 街を再開発しながらも、日常の暮らしに根づく文化や歴史を、唯一無二の魅力として発信することで、30～40代女性という新たな顧客ターゲットを見出しているのが特徴 				○			○	
6	日本一の星空の村 長野県阿智村	<ul style="list-style-type: none"> 阿智村では「日本一の星空の村」としてブランディングに成功しており、「日本一の星空ナイトツアー」には年間約6万人が訪問 元々は村の中心にある昼神温泉の認知度向上の方策として、他所にはない地域資源であり、地元住民に愛されている「星空」に着目 企業とのコラボレーションイベントの開催や宿泊施設の整備など、自然の資源を生かして地域の魅力を広げている。 			○	○		○		
7	海士町をつくる24の提案 島根県海士町	<ul style="list-style-type: none"> 島根半島から約50kmに位置する海士町では、「なくてもよい」「大事なことはすべてここにある」の2つの意味をこめた「ないものはない」というスローガンを打ち出し、一貫した施策を実施 住民中心で作成した「海士町をつくる24の提案」は、島で生きる幸せに焦点をあてたビジョンの冊子。他にも島内の公立高校が学区制を廃止して全国から入学生徒を募集する地域留学を行っており、東京や海外から地域体験の希望者が町を訪問 「島前高校魅力化プロジェクト」では、島全体を学校と捉え、住民を先生、地域課題を教材とし、ここでしか学べない「学び」を提供する島留学を普及 			○	○			○	

企画委員会で検討して頂く論点など【第1回戦略会議を踏まえて】

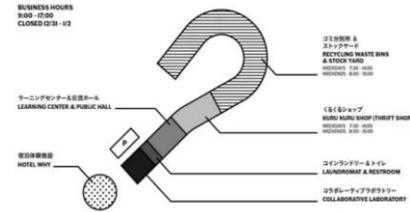
番号	項目	概要	ひと	まち	社会	経済	寛容性	固有性	満足度
8	<p>地元名産「めがね」による地域ブランドの発信</p> <p>福井県鯖江市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メガネフレームの国内生産シェア96%を誇る「めがねのまちさばえ」は2000年代から本格的なブランディングに取り組み(めがねミュージアム、めがねフェス)、今では福井の産地統一ブランドとして「THE291」を立ち上げ、国内外に情報発信を実施 ・これらの取組による高級路線での販路拡大の他、オープンデータによるICT活用、学生との連携、提案型市民主役事業など、若者が暮らしやすいまちづくりの柱となる施策を次々と仕掛け、産業・後継者の育成や雇用確保、人口増を実現 ・メガネの他、漆器産業や繊維産業等、伝統工芸品の7産地が集積する特性を生かし、国内最大級のオープンファクトリーイベント「RENEW」を開催。産地のPRにとどまらず、移住者や関係人口の増加、雇用拡大にも貢献し、持続可能な地域経済圏を生み出している 		○		○	○		
9	<p>Share 金沢による「ごちゃまぜの街」の実践</p> <p>石川県金沢市①</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「Share 金沢((社福)佛子園が運営)」は、元国立病院の跡地を利活用して造られた総合福祉施設で、コンセプトは“ごちゃまぜの街” ・約11,000坪という広大な敷地内には、サービス付き高齢者住宅や障害児入所施設、金沢美大生の学生住宅、学童保育、天然温泉や飲食店、ライブハウスに運動場、さらにはクリーニング店からボディケア、アルパカ牧場まで様々な施設・機能が混在していて、高齢者、大学生、児童、障害のある人、移住者や地域住民など世代も立場も様々な人が集い、まさに「人を分け隔てしない街づくり」が実践されている ・各施設は、そこに居住する障害者や高齢者、学生等の就労やボランティアによって運営されており、日常的な交流、コミュニティの活性化等の機能も発揮 		○	○		○		
10	<p>地理特性を生かしたシェアサイクル事業「まちなり」</p> <p>石川県金沢市②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・金沢市では、コンパクトな地理特性を生かして、誰でも気軽に利用できる公共シェアサイクル「まちなり」を2021年に開始 ・独自のツアーに限らず、鉄道などの公共交通やスポーツチームと共同で企画を立てたり、商店街と連携したクーポン券を発行したりした結果、年10万回以上利用されるサービスまで成長 		○		○		○	

企画委員会で検討して頂く論点など【第1回戦略会議を踏まえて】

番号	項目	概要	ひと	まち	社会	経済	寛容性	固有性	満足度
11	高原野菜の栽培特化 長野県川上村	<ul style="list-style-type: none"> 川上村は、標高が高く冷涼なため稲作に適さず、昭和の始めまでは貧しい寒村であったが、着眼点を変えてレタスやキャベツといった、葉物の高原野菜の栽培に特化 レタス栽培技術の革新や新規技術の導入、流通システムの確立などに取り組んだ結果、今では日本一のレタス生産地となり、地元農家の平均収入も高額となり、豊かな村に生まれ変わった 後継者も定着し、出生率も全国トップクラスの水準を維持するなど、少子高齢化対策にもつながっている。 	○			○		○	
12	百年の森林構想 岡山県西粟倉村	<ul style="list-style-type: none"> 西粟倉村では「百年の森林構想」と銘打ち、ローカルベンチャーによる地域資源を活かした新ビジネスを促進し、事業拡大に伴う雇用増加という好循環を実現 森林の継承を目的として村内で起業する新たな人材を募集したところ、30以上のローカルベンチャーが誕生し、豊かな資源である木材を活用した新商品の開発や流通等の事業を展開 その後も、移住から創業・事業拡大までの支援を行う外部の専門家を招き入れたり、効率的に木材の流通を行うことができる体制を整えたりといったサポートを実施 新たに事業を起こすベンチャー企業は現在も増加中で、課題であった人口減少の克服にも繋がっている 				○	○	○	
13	まちづくりのリノベーション 福岡県北九州市	<ul style="list-style-type: none"> 「小倉家守構想」と題したリノベーションまちづくりをから推進 家守とは江戸時代における長屋の大家の呼称で、借家人の生活面の面倒なども見るなど、大家の枠を越えた地区のマネージャーのような役割を担っていたもの。この構想では、その現代版を目指し、行政・地域住民等と連携して遊休不動産をスモールオフィスなどに転用。そこに起業家や個人事業者を呼び入れることで、遊休不動産を活用し、新たな価値を生み出している 自治体のみならず、民間都市開発推進機構、北九州市立大学、九州工業大学、株式会社北九州家守舎などが参画 まちづくり人材の育成や、雇用の創出と賑わいづくりを目的とした「リノベーションスクール」も開催し、物件の再生や雇用創出につながっている。さらに、当該地区への人の交流も増加するなど、都市型産業の集積や雇用創出、コミュニティ再生、地域価値の向上などにつながっている。 		○		○	○		



企画委員会で検討して頂く論点など【第1回戦略会議を踏まえて】

番号	項目	概要	ひと	まち	社会	経済	寛容性	固有性	満足度
14	平田観光農園 広島県三次市	<ul style="list-style-type: none"> 年間16万人来客する観光農園は、イチゴジャムづくりやダッチオーブン料理などの体験型観光を提供し、農産物加工品を販売 さらに、地域住民とともにNPO「ほしはら山の学校」を立ち上げ、廃校を利用して子どもたちに農作業体験を提供(年間2,000人利用) 村の拠点「郷の駅」も共同で設立し、医療、観光、生活必需品の販売などの地域づくりを支援し、観光農園を中心に幅広い取組を通じて、地域振興を実現している。 				○			○
15	戦国城跡巡り事業 -可児市の乱- 岐阜県可児市	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史資産に着目し、古墳や戦国時代の城跡、安土・桃山時代の窯跡などを巡る地域活性化イベント 目玉はスポンジ製の柔らかい刀を用いて、戦国時代の合戦を体験する「チャンバラ合戦-戦 IKUSA-」で、開催する度に参加枠が埋まるほどの大盛況 歴史好きに限定されず、老若男女問わず参加できる点が成功の秘訣であり、今では世代を超えて、多くの地元住民が自発的に携わるイベントに成長 				○		○	○
16	地域住民の医療履歴一元管理で効率的な受診 (ポケットカルテ) 京都府京都市	<ul style="list-style-type: none"> NPO法人が医療履歴をクラウド上で一元管理し、効率的な受診を可能にした事例 医療履歴を一元管理することで、地域住民が無料で自分の投薬履歴を安心して確認できるシステムを確立 医療機関間において相互に診療情報の共有が可能、また、高齢者でも利用しやすい工夫がされている 			○	○			○
17	ゼロ・ウェイスト(ごみゼロ)宣言 徳島県上勝町	<ul style="list-style-type: none"> 2003年に「ゼロ・ウェイスト宣言」を出し、焼却・埋立ごみの排出をなるべくゼロに近づける取組を実践。ごみを45分別にする、家庭用生ごみ処理を行う等により約81%のリサイクル率を維持 「上勝町ゼロ・ウェイストセンター WHY」はごみの分別拠点で、不用品の持ち込み、持ち帰りができるリユースショップや宿泊施設「HOTEL WHY」を併設。「なぜそれを買うのか?捨てるのか?」と問うことを原点とし、建物も上空から見ると「?」のデザイン この宣言で、日々の行いを徹底的に見直す、町の人々の意識、ものの使い方、暮らしの価値観に変化をもたらした 			○		○	○	

企画委員会で検討して頂く論点など【第1回戦略会議を踏まえて】

番号	項目	概要	ひと	まち	社会	経済	寛容性	固有性	満足度
18	道の駅なみえ 福島県浪江町	<ul style="list-style-type: none"> ・復興のシンボル及び町の新しいランドマークとして、地域の期待を受けて2020年に誕生した「道の駅なみえ」の特徴は、「道の駅」としてはもちろん、人と人をつなげ、人を育てる「人の駅」としても機能 ・店内には地産の農産品や地元漁港で水揚げされた魚介類の加工品、地酒のほか、県内の別市町村とのコラボレーションから生まれた商品や秋田県、青森県などのおつまみも並べられていて、ここを起点に地域を超えて生産者がつながり、学び合うなかで魅力的な商品や事業が生まれ、外から人を呼ぶ、観光・交流の好循環を創出 ・さらに太陽光発電の他、町内で稼働中の世界最大級の水素製造拠点「福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)」で製造された水素を用いて発電を行い、店内の照明や空調に活用するなど、再生可能エネルギーを活用したスマートコミュニティの実現拠点としても機能 	○		○	○			
									
									
19	アートを取り入れた地域の活性化 フランス ナント市	<ul style="list-style-type: none"> ・フランスのナント市では、「昔栄えていた港町」という印象を払拭するため、アートを取り入れた街づくりを進めることとし、文化部門に予算を重点的に配分。その結果、今ではヨーロッパの中でも最も魅力的な街へと生まれ変わった ・街全体に美術間さながらにオブジェなどが見られ、観光客にも分かりやすいように緑の線が歩道に引いてあり、それを辿る事で芸術作品を見られるように工夫されている ・2007年には 芸術家集団とコラボした遊園地を作り、雄大な動物たちを形どった乗り物などが人気を博し、数年で観光客が5割近く増加 		○			○		○
									
20	特色ある農村地域としての再生 イタリア トスカーナ州	<ul style="list-style-type: none"> ・トスカーナ州では有機農業やエコツーリズムを推進することで、地域としての魅力やブランドを高め、観光客や都市部からの移住者を増やしている ・高品質にこだわり、国内外に積極的なマーケティングを実施(地理的表示保護、国際的な食品展示会へのプロモーションなど)し、それらから更に農場滞在型の観光へと誘引 ・あわせて農村地域のデジタル化を進め、スマート農業やeコマースの活用を可能とし、農業の効率化と収益性の向上が図られている 	○	○		○			
									